

国際会議から 国際公共交通連合 世界公共交通サミット2017

国際公共交通連合（以下、UITP）は1885年に欧州の主だったトラム事業者50社によって国際トラムウェイ連合として設立されたブリュッセルに本部を置く国際組織で、都市の公共交通の政策への提言、最新知識の共有、会員同士の交流促進をその使命に掲げています。UITPには、世界中の鉄道、バス、トラム等の公共交通機関、関係する行政機関、一般企業、研究機関などが約1400の企業、団体が会員となっており、鉄道総研は2014年に加入し、海外の専門家との交流拡大を目指してアカデミック・ネットワークの会議等に参加してまいりました。

今回、筆者らは、都市交通分野での技術動向の調査のために世界公共交通サミット（以下、UITPサミット）に参加するとともに、UITPとの協力関係模索のためにUITP事務局のアカデミック・ネットワークの担当者との意見交換を行い、互いに興味のある分野に関して連携することが可能であることを確認しました。今後、UITP本部およびUITPアジア太平洋地域の活動の中から、具体的な連携分野について模索を進めて参ります。

UITPサミットは、UITPがその設立の翌年（1886年）からおおむね2年に一度開催している、都市交通を中心とする公共交通全般に関する国際会議および展示会で、第62回である今回の会議はカナダのモントリオールで開催されました。今回のUITPサミットでは3日間の本会議期間中に73の発表セッションがあり、そのテーマは、顧客サービス・運賃収受、都市開発・交通政策、エネルギーと環



プレナリーセッション（全体会議）の座長および講演者
左から座長のJay WADLER氏（Motivate社長兼CEO）、Jeremy YAP氏（シンガポール陸上交通庁公共交通局副局長）、Alain FLAUSCH氏（UITP事務局長）、Ed REISKIN氏（サンフランシスコ交通局長）、Bernt REITAN JENSSSEN氏（オスロ市交通局長）



明星秀一
国際業務部
国際 主査



鈴木崇正
信号・情報技術研究部
交通計画研究室 副主任研究員

境問題、デジタル化とデータ活用など多岐に渡っていました。モバイルアプリの開発やバス・乗用車の自動運転など先進の研究開発事例の紹介もありましたが、全体としてはさまざまな都市におけるプロジェクト事例に基づく課題解決や政策の確立、ガバナンスが議論の中心と感じられました。世界各国のベストプラクティスを共有し、それぞれの都市・交通政策に活用しようという意識に満ちた会議でした。

本会議の前日にはUITP総会、開会式、レセプション、本会議翌日にはテクニカル・ツアーが開催され、総会ではJR東日本の小縣副会長からスペインのカタルーニャ鉄道のPere Calvet Tordera総裁へのUITP会長交代が承認されました。

合計で約2.2haの展示会場には、各国のメーカーや交通事業者約330者が出展し、先進技術を駆使した製品や取り組みが多数紹介されていました。また会場前では、自動運転バスの試乗会も行われていました。

モントリオールは、北米にあるフランス語圏の大都市として知られていますが、交通の面から見るとセントローレンス川の水運と陸上交通の結節点であり、市内および周辺の河岸には運河、港湾施設、貨物鉄道施設が数多く並んでいます。

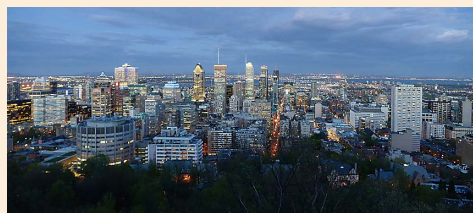
正式名称：UITP Global Public Transport Summit
 開催国：カナダ（モントリオール）
 期間：2017/05/15-17
 主催：Union Internationale des Transports Publics
 開催頻度：2年に1回
 次回開催予定：2019/6/9-12
 スウェーデン（ストックホルム）
 ホームページURL：https://uitpsummit.org/



展示会場に並ぶ大手鉄道メーカーのブース



自動運転バスの試乗会



モン・ロワイヤル公園から見た
モントリオール市街地

国際会議から 第19回鉄道システム工学国際会議 (ICRSE 2017)

ICRSE 2017は2017年2月16日から17日にかけて、イギリスのロンドンにて開催されました。名称は鉄道システム工学国際会議ですが、複数の国際会議を同時開催しており、交通計画と関係する都市開発や航空に関する発表もあり、多くは土木・建築・環境分野に関する研究の発表でした。

発表は約70件あり、ヨーロッパだけでなくアジアやアメリカ大陸からの参加者もいました。

筆者は、アンケート調査をもとに駅の魅力度を定量化する手法と、駅の魅力度と周辺人口などを利用して乗降客数を推計する手法について発表を行いました。日本の大都市圏では、複数の駅が旅客を取りあっていることや、駅構内の商業施設が充実していることなど、写真を多く用いて丁寧な紹介を心がけました。発表の後に魅力度の考え方についての質問をいただき有意義な議論ができました。

帰路の途中にロンドン・ヒースロー空港にて、空港



会場のホテル



ヒースロー空港の自動運転車 Pod



発表の様子

尾崎尚也
信号・情報技術研究部
交通計画研究室
主任研究員

ターミナルと駐車場との間を無人で自動運転する4人乗りの乗り物「Pod」を見つけました。鉄道に限らず交通全体が研究対象となるので、このような新しいコンセプトの乗り物が鉄道にどう影響するか興味が有り、さまざまな視点から考える必要があると改めて思いました。

正式名称：19th International Conference on Railway Systems Engineering
開催国：イギリス(ロンドン)
期間：2017/2/16-17
主催：World Academy of Science, Engineering and Technology
開催頻度：年1回
次回開催予定：2018年2月 イギリス
ホームページURL：<http://www.waset.org/conference/2018/02/london/ICRSE>